

# 大志を育む



令和8年1月23日

教育委員会日より

No.68

発行:北広島市教育委員会

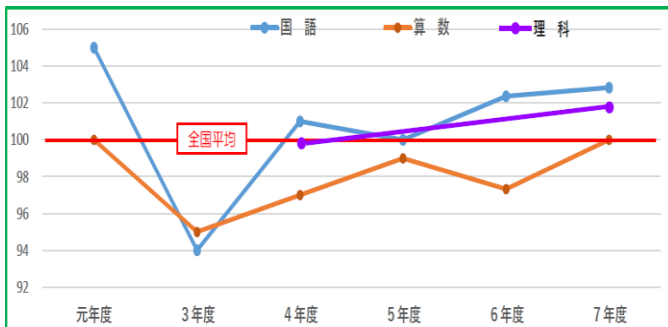
## 北広島市の子どもたちの学力の状況

学校教育課 指導主事 中村 伸次

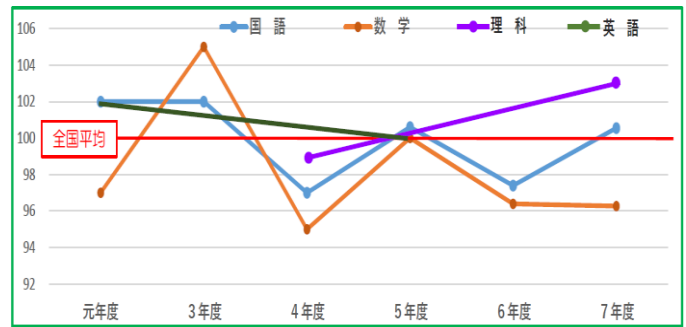
令和7年度の全国学力・学習状況調査は4月17日(木)に実施され、北広島市の調査結果の詳細については、10月24日(金)に結果報告書が北広島市教育委員会のホームページに掲載されました。また、市内各小中学校、市内各出張所、団地住民センター、市立図書館、市立図書館大曲分館にて閲覧できるようになっています。

下の図は、全国平均正答率を100としたときの本市の値(標準化得点)について、令和元年度からの推移を表したものです。

＜市内小学校:標準化得点の推移＞



＜市内中学校:標準化得点の推移＞



小学校については、令和3年度に国語・算数とも大幅に下降し、全国平均を大きく下回りました。翌年からは上昇傾向に転じ、特に課題となっていた算数については今年度、全国平均と並ぶまでに回復しました。これはこの数年間の各校における授業改善や学力向上の取組が実を結んだものと思われま

す。中学校については、令和4年度に大幅に下降し、全国平均を大きく下回り、特に数学については停滞状況が続いています。小学校の学力向上の好事例を各中学校区で共有し、中学校での取組の強化を図っていく必要があります。

理科については、小中共通して「理科が好き」「理科の授業がよく分かる」と回答している児童生徒の割合が非常に高く、正答率も全国平均を大きく上回る結果となっています。理科専科による授業、中学校からの乗り入れ授業など小中連携した取組が好結果につながっています。

今後も引き続き市内全学校において、全国学力・学習状況調査、NRT 検査、チャレンジテストの結果等を系統的に分析し、学力向上に向けた教育活動の検証と改善にすべての教職員が一体となって組織的に取り組まなければなりません。

北広島市として、「教える授業」から「子ども自らが学びを調整する授業」「対話を通して価値を共有・交換できる授業」への学びの転換を図り、新しい時代に必要となる資質・能力の育成のため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めます。また、ICT等を効果的に活用し、発達段階に応じてすべての子どもたちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図るとともに、小学校における教科担任制や習熟度別授業・少人数指導を充実させ、指導の個別化、学習の個性化を図ることにより、基礎・基本の定着の徹底を進めていきます。

また、子どもたちの学習意欲の向上を図るため、家庭学習の習慣化に向けた取組を進めていかなければなりません。AIドリル等ICTの効果的活用を進めるとともに、授業と連動した内容や自己調整力を重視した内容を重視することで「量」から「質」への転換を図り、家庭・地域と連携した取組を全ての学校で進めていきます。



# 西部中校区の小中一貫教育の取り組み



## 1. はじめに

西部中校区では、小学校と中学校が隣接しているという地理的条件を生かし、児童生徒が「顔の見える関係」の中で学びをつなぐ小中連携の取組を継続して進めています。今年度は、小中連携会議において、学力の基盤となる家庭学習の定着を校区共通の重点として確認し、日常の指導や取組について情報交換を行いました。

本稿では、毎年実施している合同学習や地域と連携した活動、進学を見据えた交流の取組について紹介します。

## 2. 合同学習・交流の取組

### (1) 小5・中2 合同体力テスト

6月17日、小学5年生と中学2年生が合同で体力テスト（シャトルラン）を実施しました。

小学生は中学生の高い体力や粘り強さに刺激を受けながら全力で取り組み、中学生は下級生の手本となろうと声をかけたり励ましたりする姿が見られました。学年を超えた関わりの中で、互いに高め合う貴重な学習の場となりました。



### (2) 小5・中2 CS 災害図上訓練

9月12日には、小学5年生と中学2年生が合同で災害図上訓練に取り組みました。提示された災害時の状況を基に、避難所でよりよく生活するための工夫を話し合い、図を用いて発表しました。



### (3) CS あいさつ運動

小中学校合同であいさつ運動を実施しています。学年や学校の枠を越えた日常的な関わりを通して、地域全体のつながりを深めるとともに、誰に対しても気持ちのよいあいさつをしようとする態度の育成につなげています



### (4) 部活動見学会・合唱鑑賞

小学5・6年生を対象に、中学校の部活動見学を行いました。実際の活動を体験することで、進学後の学校生活を具体的にイメージすることができました。また、中学生が小学生に優しく関わる姿が多く見られ、双方にとって有意義な交流となりました。

さらに、中学校の合唱練習を鑑賞する機会を設けました。小学生は表現の工夫や歌声の魅力に触れ、中学生は発表会に向けた意欲を高めました。



## 3. おわりに

このように、西部中校区では、児童生徒が共に学び、関わる場を意図的に設定することで、9年間を見通した成長を支えています。一方で、自分の考えをより分かりやすく伝える力をさらに伸ばしていくことなど、今後の課題も明らかになっています。

これからも小中が一丸となり、9年間を通じた一貫した教育の充実を図りながら、子どもたちの健やかな成長を支えていきます。

(文責：弥勒院 宣明)